

新規事業採択時評価結果（令和3年度新規事業化箇所）

事業の概要

事業名	連続立体交差事業 とうきゆうでんでつおおいまちせん 東急電鉄大井町線（戸越公園駅付近）	事業区分	連続立体交差	事業主体	東京都
起終点	自：東京都品川区豊町 至：東京都品川区東中延	延長	約0.9km		

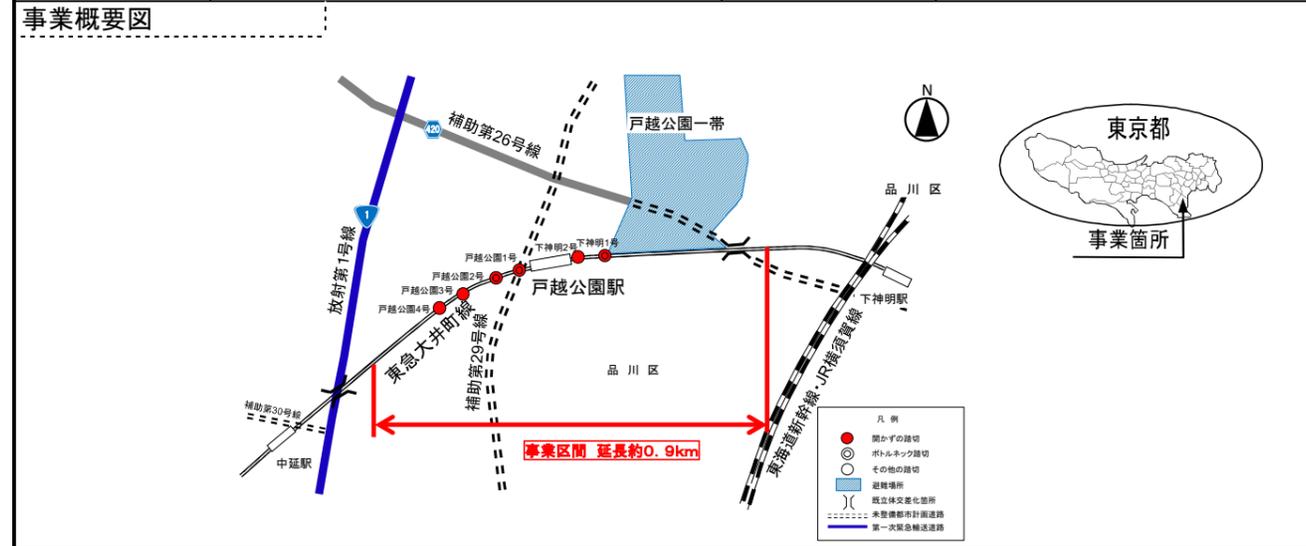
**事業概要**  
本事業は、東急大井町線の戸越公園駅付近の約0.9kmにおいて鉄道を立体化することにより、開かずの踏切6箇所を除却し、都市内交通の円滑化を図るとともに、分断された市街地の一体化による都市の活性化を図る事業である。

**事業の目的、必要性**  
本事業区間は、東急大井町線の戸越公園駅付近に位置し、区間内には、開かずの踏切6箇所が存在する。事業中の都市計画道路補助第29号線と平面交差しており、道路ネットワーク形成上の課題となっている。そのような状況から、交通渋滞や地域分断解消のための抜本的な対策が求められている。

本事業では、当該区間の鉄道を立体化し、6箇所の踏切を除却することで、円滑な道路交通を確保し、踏切事故の解消を図るものである。

併せて、駅前広場の整備等による交通結節機能の強化を行うとともに、戸越公園駅前で市街地再開発事業等による一体的なまちづくりを進め、地域の活性化を図るものである。

全体事業費	約 235 億円	踏切交通遮断量	39,711 台・時/日
-------	----------	---------	--------------



**関係する地方公共団体等の意見**  
品川区、品川区議会、地元まちづくり協議会からの鉄道立体化の早期事業化に関する要望書等が都知事宛に出されているとともに、品川区と住民による駅周辺まちづくりの検討が進められている等、地元の鉄道立体化に向けた意欲が高い。

**学識経験者等の第三者委員会の意見**  
—

**事業採択の前提条件**  
事業の効率性： 便益が費用を上回っている。  
事業実施環境： 円滑な事業執行の環境が整っている。

事業評価結果

担当課：都市局街路交通施設課

担当課長名：中村 健一

費用便益分析	B/C	1.4	総費用 137億円 (事業費: 136億円 維持管理費: 1億円)	総便益 186億円 (走行時間短縮便益: 139億円 走行経費減少便益: 34億円 交通事故減少便益: 13億円)	基準年 令和2年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.2 (交通量 -10%)	B/C=1.5 (交通量 +10%)	
		事業費変動	B/C=1.2 (事業費 +10%)	B/C=1.5 (事業費 -10%)	
	事業期間変動	B/C=1.3 (事業期間 +10%)	B/C=1.8 (事業期間 -10%)		

事業の影響	評価項目	評価	根拠
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	◎
事故対策		◎	踏切事故の解消が図られる。 ・当該区間で平成21年度～令和元年度において踏切事故2件
歩行空間		◎	戸越公園1号踏切105,393台(人)時/日や下神明1号踏切44,248台(人)時/日を含む217,932台(人)時/日（踏切6箇所合計）もの歩行者等踏切交通遮断量を抱える当該箇所の踏切が除却されることで、歩行者・自転車交通の円滑化、安全性や快適性の向上が期待できる。
社会全体への影響	住民生活	◎	道路と鉄道を立体交差化することにより、踏切が除却され、移動時間が飛躍的に短縮する。また、駅前広場等を一体的に整備することにより、交通結節機能が強化され、利便性が向上する。
	地域経済	◎	鉄道と交差する道路の踏切除却や整備等により、物流の効率化が図られる。踏切が除却されることにより、市街地が一体化し、地域経済の活性化が図られる。
	災害	◎	広域的な避難場所（戸越公園一帯）へのアクセスが向上する。
	環境	◎	交通渋滞の解消により、CO2排出量の削減が期待できる。
	地域社会	◎	交通ボトルネックとなっている複数の踏切を除却することにより、地域分断が解消され、交通結節機能の強化や良好な市街地形成が期待できる。
事業実施環境		◎	当該区間には6箇所の踏切があり、全6箇所が開かずの踏切である。そのため、沿線地域には、交通渋滞の発生や地域分断による生活の不便等様々な課題があり、沿線住民等から道路と鉄道の立体化による踏切解消が強く求められている。事業主体と鉄道事業者の合意形成も行われており、事業を実現する見通しが立っている。

採択の理由

- 事業主体である東京都が実施した評価結果に基づけば、費用便益比が1.4と便益が費用を上回っており、着工準備採択の前提条件が確認できる。
  - また、6箇所の踏切（すべて開かずの踏切）を除却することにより、交通渋滞や踏切事故の解消が図られ、事業の必要性、効果は高いと判断される。
  - 連続立体交差化に対する事業実施の環境が整っていると判断される。
- 以上から、本事業は令和3年度の新規事業箇所として妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

## 新規事業採択時評価結果（令和3年度新規事業化箇所）

### 事業評価結果（防災機能）

事業の必要性		
<p>戸越公園駅付近は木造住宅密集市街地が広がっており、災害時の延焼遮断帯の機能をもつ都市計画道路補助第29号線と交差している。また、東急大井町線（戸越公園駅付近）の約0.9kmには、6箇所の踏切が存在し、広域避難場所（戸越公園一帯）への避難経路に課題がある。本事業により鉄道を立体化し、補助第29号線の整備や踏切を除却することで防災機能を強化する必要がある。</p>		
評価項目	地域の課題	関連する計画
救助活動等	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震等の災害時における救急車両の踏切通行の確保</li> <li>市街地の道路網が鉄道により分断されており、消火活動等に支障をきたしている</li> </ul>	木密地域不燃化10年プロジェクト(都 H24.1) 戸越公園駅周辺まちづくりビジョン(区 H27.1) 戸越公園駅周辺まちづくりビジョン基本計画編(区 R2.1)
住民生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉄道が地域を分断しており、鉄道沿線には狭隘な道路が多く、災害時における避難経路に課題がある</li> </ul>	木密地域不燃化10年プロジェクト(都 H24.1) 戸越公園駅周辺まちづくりビジョン(区 H27.1) 戸越公園駅周辺まちづくりビジョン基本計画編(区 R2.1)
地域経済 地域社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助第29号線の整備や鉄道駅の交通結節点機能の充実による交通ネットワークの多重化を図ることで、震災時の早期の救援や復旧等、防災性の向上が必要</li> </ul>	木密地域不燃化10年プロジェクト(都 H24.1) 戸越公園駅周辺まちづくりビジョン(区 H27.1) 戸越公園駅周辺まちづくりビジョン基本計画編(区 R2.1)
その他	—	—

事業の有効性									
<p>本事業により交差する補助第29号線を整備することで、延焼遮断帯の形成を行うことに寄与する。</p> <p>また、戸越公園一帯が広域避難場所に指定されているが、広域避難場所に通じる道路には、現在複数の踏切が存在しており、災害時の避難経路において課題がある。本事業により6箇所の踏切が除却されることで、円滑な避難経路の形成に寄与する。</p>									
道路ネットワークの 防災機能	主な区間		改善 ペア数	脆弱度 (防災機能ランク)		累積脆弱度 の変化量	改善度		評価
				整備前	整備後		通常時	災害時	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—

事業の効率性
<p>本事業と周辺街路整備を一体的に実施することにより、緊急車両の救助活動の効率化や広域避難場所への避難経路が向上する等、防災機能が強化される。</p>